

P5, L24

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-150608

(43) 公開日 平成11年(1999) 6月2日

(51) Int.Cl.<sup>6</sup>

識別記号

F I

H 0 4 M 17/02

H 0 4 M 17/02

H 0 4 Q 7/38

15/00

G

H 0 4 M 15/00

H 0 4 B 7/26

1 0 9 J

審査請求 未請求 請求項の数2 書面 (全 2 頁)

(21) 出願番号

特願平9-217927

(22) 出願日

平成9年(1997) 7月9日

(71) 出願人 597114960

井籐 久男

埼玉県越谷市花田5丁目20番5号

(71) 出願人 597114971

株式会社エーユーシー

東京都中央区新川1丁目28番4号越前堀永

谷マンション416号

(72) 発明者 井籐 久男

埼玉県越谷市花田5丁目20番5号

(74) 代理人 弁理士 和田 成則

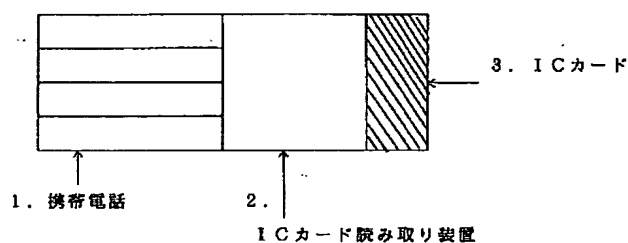
(54) 【発明の名称】 プリペイドカード式携帯電話機

(57) 【要約】

【課題】 携帯電話機にプリペイドカード用の I C カード読み取り装置を具備させ、プリペイドカードを用いて通話を行い、使用の都度通話料金を減額させ、料金収集を前払い方式 (プリペイド方式) にて行うことにより、後払い方式に於いて発生する様な料金支払いの不正使用が不可能となる。

【解決手段】 携帯電話機 1 に I C カード読み取り装置 2 を付設し、通話料金の支払いを行う I C カード 3 を施した。

(A)



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 プリペイドカード用の読み取り装置を具備したことを特徴とした携帯電話機

【請求項2】 請求項1に記載のプリペイドカード式携帯電話機に於いて、読み取り装置がICカードであることを特徴とした携帯電話機

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、携帯電話機に於いて料金収集を前払い方式にて行い、使用の都度、通話料金を減額する為のICカード用読み取り装置を具備したプリペイドカード式携帯電話に関する。

## 【0002】

【従来の技術】近年、携帯電話機は急速に普及して来おり、益々利用分野が拡大している。従来は、携帯電話に於ける通話料金の支払いが後払い方式であるため、他人のIDコードを利用して他人名義で通話を行うという不正使用が発生し、大きな社会問題となっている。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来の携帯電話機は、その料金支払いが後払い方式である為、他人のIDコードを利用して他人名義で通話するという不正使用が可能であるという欠点を有していた。本発明は、かかる状況に鑑みなされたものであり、携帯電話機にプリペイドカード用の読み取り装置を具備させ、プリペイドカードを用いて通話を行い、使用の都度通話料金を減額させ、料金収集を前払い方式で行うことにより後払い方式に於いて発生するような不正使用が不可能となる。

## 【0004】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成する為

電話にICカード方式によるプリペイドカードを読み取ることの出来る読み取り装置を具備させることを特徴とする。

## 【0005】

【発明の実施の形態】ICカードを用いたプリペイドカード式携帯電話を用いることにより、電話料金の支払いが前払い方式（プリペイド方式）となり、通話の都度、通話料金をICカードより減額することにより、従来の後払い方式による通話料金の不正使用を防止することが可能となる。

## 【0006】

【実施例1】図1は、本発明によるプリペイドカード式携帯電話の構成を示し、1. は携帯電話、2. はICカード読み取り装置、3. はICカードである。

## 【0007】

【発明の効果】携帯電話にICカード読み取り装置を具備することにより、ICカードを用いたプリペイドカード方式による通話料金の支払いが可能となり、通話料金を使用の都度ICカードから減額することにより、従来の方法の如き後払い方式による通話料金の不正使用が不可能となる。

## 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明によるプリペイドカード式携帯電話のシステム図である。

## 【符号の説明】

(A) 本発明によるプリペイドカード式携帯電話のシステム図である。

1. 携帯電話

2. ICカード読み取り装置

3. ICカード

【図1】

